

三井のリフォーム 住生活研究所長 西田 恭子

はじめての岐阜

初めて訪れる土地はそれだけでも何だかうれしく、最近ではセミナーのため、岐阜に行くことができた。

お城マニアな私は、会場が岐阜城のすぐ近くであることを喜び、朝早く出て午後セミナー前に岐阜城に向かった。

まさかあんなに高い所にお城が建っているとは思わず一瞬躊躇したが、ロープウェイがあるので飛び乗った。ところがお城はそこから更に登らなければ姿も見えない。東からの勢力をせき止める要所としてここに城を建てた織田信長は、やっぱり只者ではないと感嘆した。

またこの地は、往年の方はご存じの大ヒット曲、美川憲一が歌った「柳ヶ瀬ブルース」の地だ。ところがタクシーの運転手さんから聞いたところ、柳ヶ瀬は今やシャッター街だとのこと。四つあったデパートも高島屋一つとなり、名古屋まで、特快で約二〇分の岐阜は、マンションが増えてきているものの、名古屋のベッドタウンとなり、買物は柳ヶ瀬ではないといふ。確かに名古屋まで行か

なくても、車窓から見えた巨大なショッピングモールで買い物を済ましてしまっただろう。

さて、岐阜でのセミナーは三〇代、四〇代の方は皆無で、ご自宅のリフォームへの関心が強い六〇代、七〇代の方へ話となった。

そんなこともありセミナーでは自然と健康住宅リフォームに力が入って話をした。子供が独立して広い家で生活するための適性面積はいくつなのかとか、温熱バリアフリーや夫婦の寝室の考え方を話した。夫婦別寝室の言葉を出すと、睨み付けるように反応するご主人もいれば、フツツとほくそ笑む奥様もいる。

この話題は、各地で共通のように思うが特に面積に余裕がある地域では、簡単に夫婦別寝室が可能だけに関心は高いようだ。大都市圏への集中が止まらない今、地方では子供に頼らず高齢ながら頑張って暮らしている方々に、リフォームすることで身体への負担をなくすだけではなく、生活そのものを楽しめる家にしていただけたらと切に思うこの頃だ。

二〇年以上セミナー講師をし、その時々いろいろな方との出会いがありがたいと思っているのだが、今回もセミナーが終わって、参加者の男性から東京でレストランを開いている甥っ子の店にぜひ行ってくださいと言われた。

また二〇年前、親と一緒にセミナーに来ていた娘さんが、その後、リフォームの仕事をするようになって会場にいたこともある。キラキラした目をして、私に駆け寄って来て「私の人生にとって大変な影響でした！ 本も何冊も読み、大切にしています」と話された。私自身は世のため人のためと思いつつも、何が出来ているのか心もどなく思っていたところに、大学だけでなく後進の育成に携わっている実感が湧き感慨深くうれしかった。

セミナー終了後は夕食抜きで帰京のはずだったが、新幹線名古屋駅のホームにある店のきしめんが美味しいと誰かが言っていたことを思い出した。椅子もないお店で女性一人では……と思ったのだが、大変美味しく頂いて帰路に着いた。



西田恭子氏プロフィール＝一級建築士。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」所長。リフォーム設計の経験を活かし、新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。日本女子大学非常勤講師。インテリア学会会員。日本建築家協会正会員。